



新たな発想で、次の社会をデザインする —SDGsを含む、21世紀社会の課題解決を目指して



社会デザイン研究所長
21世紀社会デザイン
研究科・法学部 教授
中村 陽一
NAKAMURA Youichi

■社会の仕組みを変える知と実践

環境問題や地域紛争といった前世紀からの宿題に加え、新たな形の貧困や社会的排除など、21世紀社会は多くの課題に直面している。この現状に終止符を打つべく生まれたのがSDGsだが、その成立以前より、こうした分野横断的な課題に向き合い社会を革新する試みに挑んできたのが、中村陽一教授が専門とする社会デザインの分野だ。

「産業中心の社会に限界が訪れている中で、新たな社会の在りようを考えるには、従来の枠組みを越えた発想やアプローチが必要だ。常識にとらわれず、社会の仕組みや人々の参画方法を変革していく思考と実践が社会デザインであり、SDGsが目指すものをも」とも内包した学問領域なのです」
その研究対象は、環境、福祉、教

育、まちづくり、AIなどあらゆる分野に及ぶ。2002年に開設した21世紀社会デザイン研究科^{※1}では、中村教授をはじめ幅広い分野の専門家が集い、学際的な研究を進めている。

「最大の特色は、国内外のネットワークを駆使して多様な組織や人々をつなぎ、実践的なプロジェクト研究を推進している点。現場と往復しながら、社会デザインの担い手となるソーシャルデザイナーを育成しています」

■ソーシャルビジネスを次の段階へ

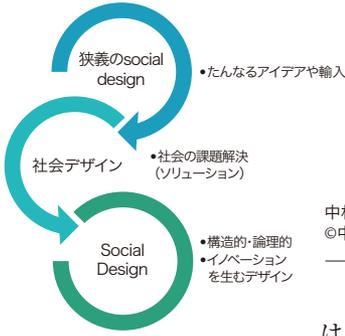
中村教授自身は、80年代半ばより、市民活動・NPO/NGOの実践的研究や基盤整備、政策提言などに取り組んできた。近年は、ビジネスを通じて社会課題の解決を図る、ソーシャルビジネスの推進に力を入れている。

「企業にとって社会貢献活動は副次的な位置付けになりますが、今後は社会デザインの発想をビジネスの中心に据えないと、企業自身も社会も持続可能性を保てない。そこで、19年に社会デザイン研究所^{※2}と株式会社JSOLが共同で『社会デザイン・ビジネスラボ』^{※3}を設立しました。100社超の企業と協働し、社会課題の解決に直結する新規ビジネスの創出を目指します」

コロナ禍により従来の社会問題がさらに顕在化し、また新たな課題も登場している現在、「まさに社会デザインの出番が来ている」と中村教授は強調する。

「小さな改善を続けるだけではなく、抜本的・構造的に社会を変える必要があると明らかになった。SDGsの達成も含め、社会を変革するための具体的なソリューションを探究し、実践し続けたいと思います」

中村教授が目指すビジョン
©中村陽一,2020



狭義のsocial design

• たんなるアイデアや輸入

社会デザイン

• 社会の課題解決 (ソリューション)

Social Design

• 構造的・論理的
• イノベーションを生むデザイン

※1 21世紀社会デザイン研究科:21世紀社会の諸問題に現実的取り組み、具体的な方法論を探究する独立研究科。

※2 社会デザイン研究所:中村教授が所長を務める、21世紀社会デザイン研究科付属の研究機関(2008年開設)。

研究科における諸活動を踏まえ、社会デザインをより実践的な場で生かすことを目指す。

※3 社会デザイン・ビジネスラボ: [Web](https://sd-bl.net/) https://sd-bl.net/ (P21参照)